

校長室だより No.8 7月19日(金)

## ぼくから始まるつながりは、再びぼくに戻ってくる(1学期終業式講話)

1学期が終わりました。とは言っても3年生は進路実現へ向けた前期・後期補習、1、2年生は基礎学力向上講座が実施されます。3年生は「勝負の夏」しっかりと自分の将来を見つめ、「気概」をもって取り組んでもらいたいと思います。

さて、1学期の終業式では次のようなお話をしました。

一つは校長室だより No.7 で書いたお電話の件と 7/11 の山陰中央新報のこだま欄のこと。こだま欄の投書では「情報科学高校の生徒の IT フェアをはじめとした生徒の自主的な地域と協働した活動が素晴らしい」という内容でした。どちらも校訓である「明朗」がしっかりと実現できている現れであると理解しています。このような地域の方々の応援を力に、自分たちの普段の取り組みに誇りを持ち、これからも「良い習慣」を継続していこうと生徒に話しました。

二つ目は、高校生としてこの夏「自分のこととして考えて欲しいこと」として長谷川義史さんの絵本『ぼくがラーメンたべてるとき』を紹介しました。

僕がラーメンを食べているとき、となりのみっちゃんはおせんべいを食べながらチャンネルをかえ、そのとなりの子はバイオリンを弾き、そのとなりのとなりのまちの女の子はケーキ作りをしている。さらに隣の国、隣の国と続くに従い女の子が赤ちゃんをおんぶしていたり、水をくんでいたり、パンを売っていたり。そしてそのまた山の向こうの国では男の子がうつぶせに倒れている。その男の子に「かぜが吹いている」。そして、再び最初の場面でラーメンを食べている男の子の姿。そこにもカーテンをゆらして「かぜが ふいていた…。」

私たちが暮らす日本と他の国々との隔たりは時間的にも感覚的にも以前よりも格段に縮まっています。しかし、そこに自分と同じような子供たちが生活し、自分とは違う様々な日常があるというのを実感するのは容易ではありません。しかも、その日常は日本のように平和であるとは限らないのです。この絵本『ぼくがラーメンたべてるとき』は、地球はまるく、そしてつながっていることを、同じ「かぜがふいている」ことを子どもたちも頭ではなく肌で感じなければならない時代が来ているのだと感じさせてくれる絵本だと思います。ぼくから始まるつながりは、再びぼくに戻ってくるのだから。

私はこの世界をつなぐ「かぜ」を「思いやり」(本校校訓)の心だと思っています。誰かのことを思いやる心が、さらに思いやりの心を生み、それが繋がり広がっていく。そしてそれが自分の元へも還ってくる…。

是非、本校の生徒諸君もこの夏「自分のこと」として「平和」や「戦争」のこと等を考えて欲しいと思い紹介しました。

